



「また、お楽しみ大会やるぞ」 って自分も返事をしてね

西連合町内会と西地区青少年育成委員会が主催する『新春子どもお楽しみ大会』。ここで披露される大道芸は、子どもたちのお楽しみの一つ。地域の子もたちへの温かいまなざしの奥には、自身も子どもだった頃の「まちの思い出」が。

西地区青少年育成委員会 会長 **杉山 智** ×

人形劇団ばびぶ **遠藤 緑** ×

西まちづくりセンター 所長 **音喜多 香二**

—新春子どもお楽しみ大会が始まってから、どのくらい経ちますか？

杉山 (右)：歴史は結構古くて、今年でもう 40 年くらい。私が関わるようになってからは 9 年目かな。人形劇や大道芸の出し

物をするようになってからは 6 年目ですね。緑さんには、毎年お世話になっています。お楽しみ大会には小学校に入る前の子どもたちもたくさん来ますが、みんな引き込まれるようにじっと観ていて、すごいなど。

遠藤 (中)：私は人形劇に携わるようになって 33 年経ちますが、始めた頃は演技も下手で、声も蚊の鳴くような声しか出なくて。それをだんだん克服してきて、今に至っています。子どもたちはみんな集中して観てくれるので、うれしいですね。

音喜多 (左)：最初の頃の姿が全然想像できないです(笑)。春に小学校へ入学する子どもたちだけが体験できる皿回しも、大人が回す皿と同じサイズのものを、みんな上手に回しますね。小さい子どもたちも、自分たちが回す日を楽しみに待っているようです。去年は保護者もいれると 150 人くらい集まって、1 階では大広間の床が抜けるのではないかと心配していました(笑)。

—子どもたちのための催しに携わる中で、やりがいを感じる時はどんな時ですか？

杉山：4、5 歳の子どもが成長して小学校に入るでしょう？そうすると道で会った時に「おじさん、こんにちは」って言われるの。それはうれしいですね。「また、お楽しみ大会やるぞ」って自分も返事をしてね。こういうことが、ボランティア活動をする中でやりがいになっている。成人式なんかで会うこともあるけど、いっちょまえにひげを生やしていたり。そういう子どもの成長を見ることが、一番楽しいね。

音喜多：そうですね。子どもたちとの関わりは、何ものにも代え難いです。会館に来た子どもたちが「あ、所長さん」って声をかけてくれると、やっぱりうれしい。そういえばお楽しみ大会の後に、小さい子どもが「皿回しのおじさん、どこにいるの？」って聞いてくるんですよ。ここにいつもいると思っているみたい。

遠藤：皿回しは体験もあるので、印象が強いのでしょうか。

—杉山さんは生まれた頃から西地区にお住まいですが、子どもの頃の思い出を教えてください。

杉山：子どもの頃はプリンスホテルが市電の車庫で、冬になるとそこに 3m くらいのつららができるんです。それを取るのが楽しかった。一番の思い出は植物園。今みたいに塀がなかったから、穴を掘って中に入れた(笑)。当時、南極探検隊の

樺太犬タロが植物園で飼われていて。横には熊の檻があったから、タロも熊も見ることができるといって、大好きな場所でした。

スキー授業の時は、ここから双子山まで歩いて行きましたよ。長く歩くから、体格のいい男子はモテるんだよね。女子の分もスキーを持ってあげるから。昔は今のスキー場みたいに建物なんてないから、吹雪だろうが何だろうが、外で立ちながらおにぎりを食べてね。ペンギンみたいなものだよ(笑)。

—それでは最後にまちへの想いをお願いします。

杉山：西地区には大きく分けて、3 つの街並があります。西線 6 条の電停のあたりは、昭和 30 年代から 40 年代初めの街並が残っている住宅街。西線 6 条から石山通までの間が、商店街と一部古い住宅。そして石山通から東側には、一戸建ての住宅はゼロに近くて、古いアパートだけが残っている。細長い地区ですから、その中でコミュニケーションを取っていくのはなかなか難しい。子どもの数も少ないけど、一人でも多く催しに参加してもらえるようにしていきたいです。そうしていく中で、必ず誰かあとを継いでくれる人が出てくると思うので。

音喜多：生まれた時からずっと、この地区に暮らし続けている人たちのネットワークは強いですね。そういった方々を中心に、人のつながりを増やして地縁を作っていくことが、まちづくりになるのではないかなと思います。私は西地区を仮に離れたとしても、ここを第二の故郷として、サポーターとして応援していきたいなあ。

遠藤：みなさん熱心なので、私も子どもたちに喜んでもらえるよう協力していきたいですね。実は、新春子どもお楽しみ大会の時に、時間に余裕があるならやってあげたいと思っていることがあって。獅子に頭を噛んでもらうと、今年一年良いことがあるって言いますでしょうか？それを本当はしてあげたい。

杉山：今年やりましょう！逃げる子どももいそうだけど……みんなと並んで、噛んでもらいましょう。

お問い合わせ先 ★ 西まちづくりセンター／札幌市中央区南 6 条西 13 丁目 4-28 TEL 011-561-7124 8:45~17:15

一番話が盛り上がったのは、子どもの頃の思い出のところ。3 人の口から「ヤッケ」という言葉が出ておりましたが、今は使わないような……

※ここに掲載できなかった取材時のお話は以下のアドレスで聞くことができます。

http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_73.mp3